暴風雪への備えを

暴風雪は、発達した低気圧が北海道付近を通過するときや、強い冬型の気圧配置のときに発生し、猛吹雪による視界不良や吹き溜まりによって、車が立ち往生して埋もれてしまうなど重大な交通障害が起きる危険性があります。

車が立ち往生して埋もれてしまった場合には、マフラーが雪で詰まり一酸化炭素中毒を起こしてしまう危険性があります。また、暴風雪時には外出を控えることが基本ですが、着雪や強風により電線が切れて停電が発生し、照明や暖房器具が使えなくなるといったおそれもありますので、停電に備えた準備も必要です。

気象台では、暴風雪によって重大な災害が発生するおそれがあると予想した場合に「暴風雪警報」を発表し、警戒を呼びかけています。特に、気象情報で「数年に一度の猛ふぶき」「外出は控えてください」と呼びかけた場合は、厳重な警戒が必要です。暴風雪の被害にあわないよう日頃から備えるとともに、悪天が予想されている場合は、気象庁ホームページや携帯電話アプリ、テレビ、ラジオなどで雪の状況や最新の気象情報を確認しましょう。

やむを得ず車で外出するときは

天気の急変などにより車が立ち往生することを想定して、防寒着、長靴、手袋、スコップ、けん引ロープなどを車に用意するとともに、十分に燃料があることを確認しましょう。

家の中で安全に過ごすために

気象情報に注意して、暴風雪が予想されているときは外出を避けましょう。

停電に備えて懐中電灯、携帯ラジオ、防寒具、ポータブルストーブや灯油、非常食、飲料水などを準備しておきましょう。

FF式暖房機などを使用している場合は、給排気口付近が雪でふさがれないように注意しましょう。

【問い合わせ】
札幌管区気象台天気相談所
☎011（611）0170

緊急告知FMラジオの無償配付を行っています

町では、災害時における避難情報やライフライン、公共交通機関の状況、国民保護に関する情報などを、迅速に町民皆さんへお伝えするため、各世帯に「緊急告知ＦＭラジオ」を無償で配付（貸与）しています。

災害時などで緊急情報が入ると自動的に起動するいざというときのためのラジオです。日頃の防災への備えとして是非お受け取り下さい。

緊急告知FMラジオ・T型FMアンテナの受け取り場所

※窓口の開設時間は平日の９：00から17：00です。
※来庁することが難しい場合や、ご都合がつかない場合はご相談ください。
※緊急告知ＦＭラジオおよびＴ型ＦＭアンテナの配付は、各世帯１台（１個）です。

■総務課
広報・防災・情報グループ
（役場旧庁舎２階）☎73-7501

■ブランド推進課
観光・賑わい推進グループ
（旧岡嶋商店）☎76-7787

■南部公民館
☎75-2111

【問い合わせ】 ブランド推進課観光・賑わい推進グループ　☎76-7787

ヒートショックにご注意を！

【問い合わせ】 消防署　☎72-0150

ヒートショックは、気温の変化によって血圧が上下し、心筋梗塞や脳梗塞等を引き起こす現象です。主に家の中の温度差により引き起こされています。ヒートショックでの死因の大半は、入浴中の意識障害による溺死で、浴槽で倒れ、沈み込んで溺死するというパターンが多いと言われています。しっかり対策をして事故を未然に防ぎましょう。

いつ、どんな人に起こりやすい？

室内の温度差が生じやすくなる11～2月が発生しやすくなる時期です。

【起こりやすい人の特徴】
①65歳以上の高齢者
②高血圧、糖尿病、動脈硬化がある方
③肥満・睡眠時無呼吸症候群・不整脈など基礎疾患がある方

予防に効果的な対策は？

①脱衣所や浴室に暖房器具を置き、室内の温度差を無くす
②風呂は38℃以上42℃未満
③食後1時間以上空けて入浴。入浴前の飲酒は控えましょう
④入浴前後に水分補給をする
⑤家族に入浴することを報告

事故が起こってしまったら？

万が一浴槽で溺れ、意識が無くなっているのを発見した場合、まず浴槽のお湯を抜き、119番通報してください。その後、可能であれば浴槽から引きあげ、消防署通信員の指示に従い、心肺蘇生法などを実施してください。

救急講習を行っています

こうした事故に備え、消防署では心肺蘇生法やAEDの使い方を学ぶ講習を行っています。少人数や短時間でも対応できますので、興味のある方はお気軽に問い合わせください。

広告